

【生薬名】天南星 *ARISAEMATIS TUBER*

【起源植物】マムシグサ *Arisaema japonicum*



【科名】サトイモ科 *Araceae*

【別名】ヘビノタイマツ、虎掌(神農本草経)

【薬用部分】球茎

【主成分】サポニン、蔞酸カルシウム、澱粉

【薬性】気味は苦辛温、帰経は肺肝胃に属す、有毒

【効能】●祛風解痙・燥湿化痰

●生は毒性があるので絶対に口にしないこと、外用のみに使う

●生の球茎をすり下ろして布に塗り、肩こり、リウマチ、神経痛、胸痛、はれものには患部に張り付ける

●腰痛には、真っ赤に熟した実を1日5、6粒(乾燥させたものは4、5粒)飲むと全身が暖まる、薬効が相当強いので常用しない、痛みが和らいだら飲むのを止める、長野県地方の民間療法

●鎮静、鎮痙、去痰の効能があり、乾燥したものを1日1～3gを煎服する

●子宮頸癌、食道癌に使うことがあるという

【出典】●南星 性熱、能く風痰を治す、破傷自ら強め、風搐皆安し。(薬性歌)

●虎掌 味苦温 生山谷 治心痛 寒熱結氣 積聚伏梁 傷筋痠拘緩 利水道。(神農本草経下品)

【備考】●同族のムサシアブミやウラシマソウ等も天南星として用いる

●全体に紫色の斑点があり、これをマムシにみたててマムシグサと呼ばれている

【処方例】●二朮湯